

第8回 東近江市市民協働推進委員会 要点まとめ

◆開催日時 平成25年3月27日(水) 19:30~21:30

◆開催場所 東近江市役所 東庁舎 東A会議室

◆会議内容

協働の原則(東近江の10の約束)を明文化するため、これまでの意見をふまえてまとめた①~⑨項目について、表現や不足点がないかなどの意見をだした。会議での意見をふまえ、再度協働の原則を整理した。

① 地域愛を醸成する

- ・郷土愛の基になる、地域の文化・伝統・歴史などの地域資源をもう一度みんなで掘り起こしながら議論して、もっと輝くようにすることが必要。
- ・転勤で来た人も、東近江のことを好きになる人がたくさんいるので、そういう人たちのよりどころや、そういう人たちとつながっていくということ、そういう人も共通した、ある意味のアイデンティティみたいなものを重ね合わせていけるようなイメージも必要。
- ・地域について、地域の捉え方はレンジが広くて、多様で、人が持つイメージが相当違うため、記述の中では、少し幅広い地域ということを行ったほうがいいのかも。記述の中では、少し幅広い地域ということを行ったほうがいいのかも。
- ・あまり大きい部分では難しいので、我々の住んでいる村とかから、地域をだんだん広げて行って、東近江市を考えていったほうがいいのか。
- ・「生活」というキーワードはいいと思う。生活の範囲は人によって違うし、東近江市に働きに来ている人にとっても、そこで生まれ育った人にとっても、生活という言葉で表現できる。生活から見えてくることから地域やまちづくりのことを考えるということが大事。

② 対等な関係をつくる

- ・対等な関係はどうやったらつくられるのか、何が必要か、対等な関係が、どうやったらできるのかということについて、言葉を豊かにしていきたいと思う。
- ・行政(組織)に対して、市民(個人)は対等になりにくいと思う。対等にするためには、市民が協働して、行政に対して、ものを言えるようなパワーを持つことが必要と思う。
- ・みんな助け合っていくとか、同じ思いを持っている人たちがつながり合うということだと思う。それを促していくための方策や支援が必要になってくる。
- ・行政と市民だけではなく、それぞれの団体も違いがあるので、まず違いを理解していくことから始めていくことが必要。
- ・⑨の多様性を生かすとか認めるという部分があるが、そこにも絡んでくるかもしれない。ここは主体的なとか、行政が指導してする協働は少し違うという議論が下敷きにあるような気がする。
- ・合併前の役所との距離感の近さみたいなものと、合併後の距離感で、あえて対等と言わざるを得なくなっているのかもしれない。こういう議論が出てくるというのは、行政と市民の距

離感が影響しているのかもしれない。

- ・「対等」という言葉が引っ掛かる。多様性とか言いながら対等というのは少し違うように思う。逆に④で、お互い理解するということがあるので、あえて「対等な関係」というのは、要らないのではないか。
- ・あえて「対等」という言葉をやめようというのは、いい提案だと思う。④の「お互いを理解する」というところに、対等性みたいなニュアンスは収れんさせたらどうかという、いい提案だと思う。「対等」については、あえて原則の中から外す。

③ 責任を持つ

- ・責任を持つというのは教科書的だと思う。役割とかやりがいとか、自発的に、ということが出てきているので、責任でもあるけれども、何か言葉としてどうかと思う。
- ・ここで書かれている幅の広いことが、なかなか伝わりにくい。
- ・まちづくりということになると、民間は行政が担う責任と少しニュアンスが違ってくると思う。役割とかそういうことになってくるのではないかな。
- ・きちんと責任を持ってやってくださいという言葉は、本文中にあっているが、タイトルとしてはどうかと思う。
- ・できることをするというニュアンスが、民間の場合、一番大事だと思う。
- ・責任を持つという言葉はきつい。それぞれの役割を持って、それを成し遂げるという責任感はあると思うが、責任を持つと言われると、少しきつい感じがする。
- ・市民の強みと行政の強みを生かし合うというニュアンス。それぞれ立ち位置が違うので、やれることが違うし、責任の果たし方も違う。
- ・「市民がやれること、市がやるべきこと」ではどうか。
- ・行政に対しては責任を持つと言っても、市民に対して、協働について責任を持つと言われると、少しつらいし、重いというイメージがある。
- ・自分たちの地域を自分たちで守っていくという、ある意味での責務として、項目としてはあっていると思うが、タイトルとしてはきつい。さきほどの意見のニュアンスをもとに再検討。

④ お互いを理解する

- ・行政と市民の相互理解だけではないということが大事。市民同士もそうだし、企業と市民の間も。住民間、団体間でも。
- ・「三方よし研究会」という医療連携ネットワークについての活動で、一番大切にされているのが、顔と顔が見える関係。協働でも、顔が見える関係が大切だと思う。
- ・先ほどの距離感の問題とつながることだと思う。そういう関係性みたいなものが非常に大事だと思う。

⑤ 目的を共有する

- ・一般的には、目的を共有するというのは、行政事業を市民が担う型の協働のときは、行政と市民が事業の目標を共有して、一緒にそこに向かって走りましょうという言い方になる。それはそれでいいが、一方通行のビジョンを押し付けられるということだけではなく、住民からのメッセージやビジョンをどう共有し、どう広げていくかということも、ニュアンスとしてはあったほうがいいと思う。

- ・お互いを理解するというところで、顔が見える関係、顔が見えるネットワークが非常に重要。
- ・あいさつ運動が浸透していて、みんなが一緒になって、協働してやっている地区がある。地区ごとに住民同士が共有し合えたら、すごく大きな力になると思う。
- ・地区ごとに議論して深まっていったり、共有できたりするという今の事例は、いろいろな形で応用できる。そういうことを少しイメージして、何のために自分たちは、まちに関わるのかみたいなことを入れると、もう少し東近江らしい一体感が出ると思う。
- ・目的・課題・プロセスを共有することに加えて、成果も共有すべきではないかと思う。

⑥ 住民が参画できる場をつくる

- ・こういう書き方をすると、行政が「できる場」をつくらなければならないということになる。
- ・ボランティア団体や市民活動団体とか、市民側の責務かもしれない。いろんな人を巻き込んだり、楽しさを分かち合ったり、住民の自治活動やまちづくり活動に参加するチャンスを与えられるのは行政だけではないので、そういうニュアンスが出てくるといいと思う。
- ・市民としてだけではなく、行政職員として参加しながら、お互いの違いをもっと議論したり、分かり合ったりという、そういう意味での出会いもあるかもしれない。
- ・「お互いを理解する」のところに、そのニュアンスを入れましょう。ここはどちらかというところ、場をつくる、場を開くというニュアンスが強いように思う。
- ・地域の課題から目指すべき姿を見つけたら、その力を最大限に発揮するのが公の役割だと思う。市民活動に行政が協働として関わる場が、そういうところでたくさんできるのではないかと思う。

⑦ 担い手を育成する

- ・参画の場を豊かにすれば、担い手は必要。担い手やリーダーを育成することをやってきたが、成果が出ていない。「育成する」ではなく、地域にあるものをどう引き出してくるか、力を生かすかとか、もともとあると信じたほうが良いような気がする。
- ・そういう人たちを育むための環境づくりではどうか。
- ・どこに行っても同じメンバーで同じ議論をしていたり、まちづくりをするのは、本当に一握りの人たちになっているという反省がある。理想論であるが、そこを変えていくような言い方のほうが良い。
- ・去年、研修の担当をしていたが、行政職員に対しても、まだあまりファシリテーションの研修は行っていない。しかし、必要性はすごく感じている。
- ・八日市図書館で職員研修をされた際に、たまたま内容が高齢者関係で、私たちのNPO法人にも一緒に来ないかということで声を掛けていただいたことがある。
- ・そういうことは実際にまちでは起こっているのでもう少しそういうのがイメージできると、みんなで高め合いましょうとか、情報やノウハウを共有しましょうとかそういうことが表現に入ってくると思う。
- ・研修の話とか、地域でいろいろな形で人をつないだり、発掘したり、担い手は居るという前提で、ないものをねだるのではなく、あるものを磨く、気づいていない力とか、担い手論はこういうニュアンスで少し整理をしていただきたい。
- ・人材育成というよりも人づくり的な部分があり、根底にある人づくりをした上で、担い手の人材育成かなと、そういうものが根底にあるような感じを受けた。

⑧ 連携する。つながりをつくる

- ・行政とまちづくりを自発的に進めている人たちと交流し、共に同じ立場で議論をしながら意識を深めていけるように、もう1歩踏み出すために、何が足りないのか、何が必要なのかを考えている。
- ・連携する、つながりをつくるみたいなどころでいくと、あまり企業の姿が見えてこない。まちづくりをすることで、自分たちの商売が活性化するみたいな文脈で捉えていったほうが、事業者としてはいいと思う。
- ・その点では、顔が見えるという部分がキーワードになってくると思う。向こうの顔を探しながら、商品開発や、商品に発展していく素材をつくっていってもらおうというのは、やっていることだと思うので、そこがキーワードになると思う。
- ・奥永源寺の集落の振興されている方々で、自分たちがやっている活動を紹介しようという場があったが、それぞれバラバラの中で動いていた。それをつなげてみたいと思う。行政がつなぎ役をするのか、どこがするのかは今後の課題であると思う。
- ・そういうつながる場は必要。今までのつなげ方、特に行政がやるものと違うものがあったとしてもいいのではないかというご提案とも取れた。いろんな人たちがやったらいいと思う。

⑨ 多様性を活かす

- ・まちづくりで、この部分が一番大事だと思う。いろいろやっているが、人に言われて初めて、自分にできることに気づき始めた。他人に言われて初めて分かる、その場があまりないような気がする。
- ・気づきが大事ということで、普段からしていることが、他から見るとすごいことかもしれないので、そういうことを考えてみたらいいと思う。
- ・「多様性を活かす」なのか。力を生かすというニュアンスに見える。多様性を活かすというのは、「お互いを理解する」みたいなどころに収れんしてもいいように思う。
- ・できることに気付いて、見つけてあげること、褒めるということが、ここに入っていたほうがいいと思う。
- ・担い手論をはじめ、多様性、住民参画とも重なっているような気がする。多様性という、いろんな価値があるというニュアンスでは少し違うので、多様な力とか、市民が持っている力、企業が持っている力、まちにある力という、そういうものを引き出したり、生かしたりするような環境や場や関係性、そういうものを総じて言っている気がする。ここは、この項目として残すか、もしくは、少し全体を見たときに、もう少し落とし込めるところがあるような気もしなくもないかもしれない。
- ・「新たな発想」について、異業種交流でも同様に違う能力とか分野の人と接することによって刺激を受け、新たな発想、新しいものが生まれてくるというニュアンスもあると思う。

(4) その他

次回は、5月21日(火)、19時30分から開催